慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	倭の五王の名称について
Sub Title	
Author	志水, 正司(Shimizu, Masaji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.37, No.2 (1964. 8) ,p.108(224)- 108(224)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640800-0108

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

倭の五王の名称について

宋書倭国伝にみえる倭の五王をどの天皇に比定するかの問題について、済を允恭天皇、興を安康天皇、武を雄略天皇とすることには異論がなく、また讃を仁徳天皇か履中天皇、珍を反正天皇とする説が大方の賛同するところとなっている。これに対し、比定の仕方があるいは字音同似により、あるいは字義同一によって一様でない点を疑い、比定を字義同一に限定しようとの考えから、讃を応神天皇、弥を仁徳天皇とみる説に左袒するむきもある。しかし、興について字義からの適切な説明はいまだになく、また系譜関係が無視されてもいるのである。

ここで思うに、従来は倭の五王を指示するに好字が用いられていることについて、あまり注意をはらわなかったのではあるまいか。称讃の讃、珍貴の珍、済済の済、興盛の興、武勇の武いずれも好字が選ばれているのである。そしてこの好字名称は、中華思想の堅固な中国側が夷蛮の一国王に附したものというよりは、日本側で自選し、中国へ呈出する上表文に記載されたものとみる方が妥当性をもつと思われる。当時日本側で文字の好悪に関心をもっていたことは、武の上表文に西服衆夷、句驪無道などとあることからもうかがわれるのである。日本側で中国風の名称をつける場合に、天皇の名は長長しく、それを一字とし、しかも好字を附けようとしたとき、多分に苦心したことが察せられる。その一好字を選ぶ工夫が、あるときは字音に即し、またある場合は字義に即した名称を案出したのであろう。上記のごとく推考するとき、倭の五王の比定における字義同一、字音同似の不統一は、それを難ずるよりも、むしろ当時の日本側の苦心のほどを示すものとして興味深く思われるのである。（志水正司）